

2022年度 決算説明会資料

- ※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に
依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、
実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性が
あることをご承知おきください。
- ※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。



中越パルプ工業株式会社





目次



I. 2022年度 連結決算概要

1. 連結業績概要	1
2. セグメント別損益	2
3. 連結営業利益増減内訳	3
4. 連結有形固定資産増減明細	4
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	5

II. 2023年度 連結業績予想

1. 連結業績予想	6
2. 連結営業利益増減内訳(計画)	7

III. 中期経営計画2025 取組み状況

1. 概要	8
2. スケジュール進捗①②	9,10
3. 事業ポートフォリオ(売上高構成)	11
4. nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速	12,13
5. 中越エコプロダクツ事業	14

IV. 参考資料

1. 連結業績推移	15
2. 連結自己資本利益率(ROE)推移	16
3. 連結有利子負債残高推移	17
4. 連結設備投資・減価償却費推移	18
5. 原燃料価格推移(対2009年度比較)	19



連結業績概要



(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	増 減
売上高	90,104	105,668	+15,564
営業利益	2,352	2,594	+242
経常利益	3,077	3,397	+320
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,268	3,050	+1,782
年間配当金 (円/株)	40.00	50.00	+10.00
自己資本利益率(ROE) (%)	2.6	6.1	+3.5
減価償却費	6,269	5,823	▲446
為替レート (円/US\$)	111.88	135.34	23.46円安
原油 (US\$/bbl)	75	97	22高
連結子会社数 (社)	8	8	±0
持分法適用会社数 (社)	6	6	±0

主な変動要因
紙：[売価] 〈国内〉価格改定実施 〈輸出〉市況好転・円安による売価上昇 [数量] 〈国内〉デジタル化進行等による グラフィック用紙の需要減退
パルプ：好況
増配
◇価格改定、コストダウン、パルプ数量増
◆原燃料・薬品価格の高騰、 円安、物流費上昇





セグメント別損益



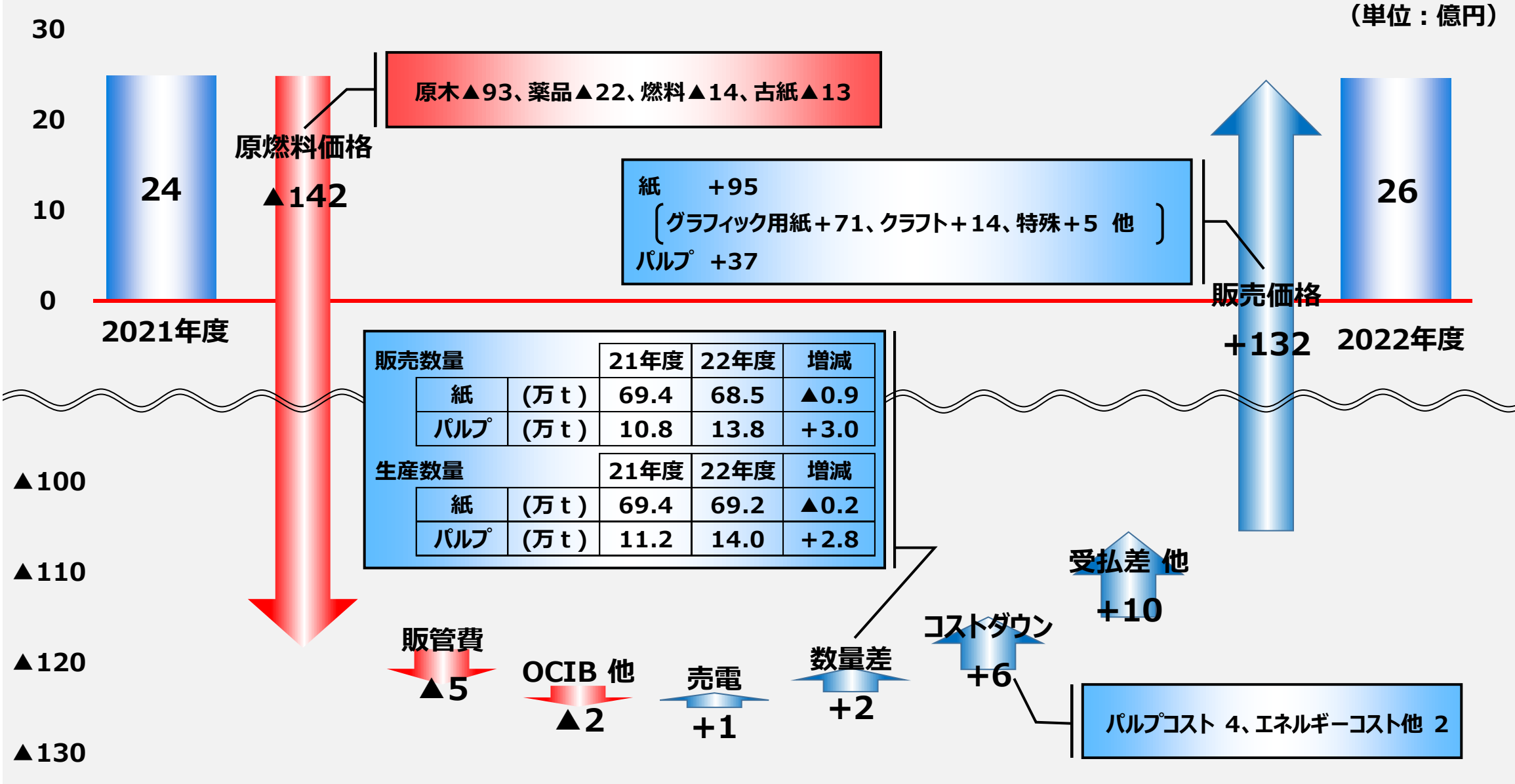
(単位：百万円)

		紙・パルプ 製造事業	発電事業	その他	調整額	合計
2021年度	売上高	79,159	6,450	19,179	▲14,684	90,104
	セグメント 損益	1,301	717	246	88	2,352
2022年度	売上高	94,246	7,340	16,543	▲12,461	105,668
	セグメント 損益	1,559	806	100	129	2,594
増減	売上高	+15,087	+890	▲2,636	+2,223	+15,564
	セグメント 損益	+258	+89	▲146	+41	+242





連結営業利益増減内訳





連結有形固定資産増減明細



(単位：百万円)

	2022年3月末	増 加	減価償却	除却等	2023年3月末	増 減
中越パルプ	48,637	4,181	▲5,435	▲174	47,209	▲1,428
連結子会社	5,764	1,038	▲253	▲1	6,548	+784
連結調整	▲1,713	-	36	-	▲1,677	+36
合 計	52,688	5,219	▲5,652	▲175	52,080	▲608

主なる増加の内訳

- ・高岡工場 家庭紙マシン新設
- ・中越エコプロダクツ(株) 設備据付工事
- ・高岡工場 4号ボイラー本体前壁水管更新
- ・東京本社再開発

1 6 億円
8 億円
3 億円
3 億円

設備投資額の推移

2020年度(実績) 4 9 億円
2021年度(実績) 5 5 億円
2022年度(実績) 5 4 億円
2023年度(計画) 1 0 0 億円



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,257	2,662	▲5,595
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,150	▲5,124	▲1,974
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲5,894	▲4,795	+1,099
現金及び現金同等物残高	14,861	8,110	▲6,751

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳 (億円)

減価償却費 58、税金等調整前当期純利益 31、売上債権の増加額 ▲45、
棚卸資産の増加額 ▲29 他

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳 (億円)

有形固定資産の取得 ▲59、長期貸付金の回収 6 他

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳 (億円)

短期借入金の減少 ▲25、長期借入金の減少 ▲13、配当金の支払 ▲5 他





連結業績予想



(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	増減	主な変動要因	
売上高	105,668	109,000	+3,332	紙：[売価] 〈国内〉価格改定効果 [数量] 〈国内〉デジタル化の加速、 省包装、簡易包装化の進行 〈輸出〉世界経済の減速 パルプ：前期生産体制増強効果	
営業利益	2,594	3,200	+606		
経常利益	3,397	3,600	+203		
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,050	2,600	▲450		
年間配当金 (円/株)	50.00	50.00	±0.00		
自己資本利益率(ROE) (%)	6.1	5.0	▲1.1		◇価格改定効果
減価償却費	5,823	5,800	▲23		◆原燃料・薬品価格の高止まり、数量減
為替レート (円/US\$)	135.34	135.00	0.34円高		対US\$1円円安につき▲130百万円/年
ドバイ原油 (US\$/bbl)	97	85	12安		1US\$/bbl高につき▲60百万円/年
連結子会社数 (社)	8	7	▲1		
持分法適用会社数 (社)	6	6	±0		

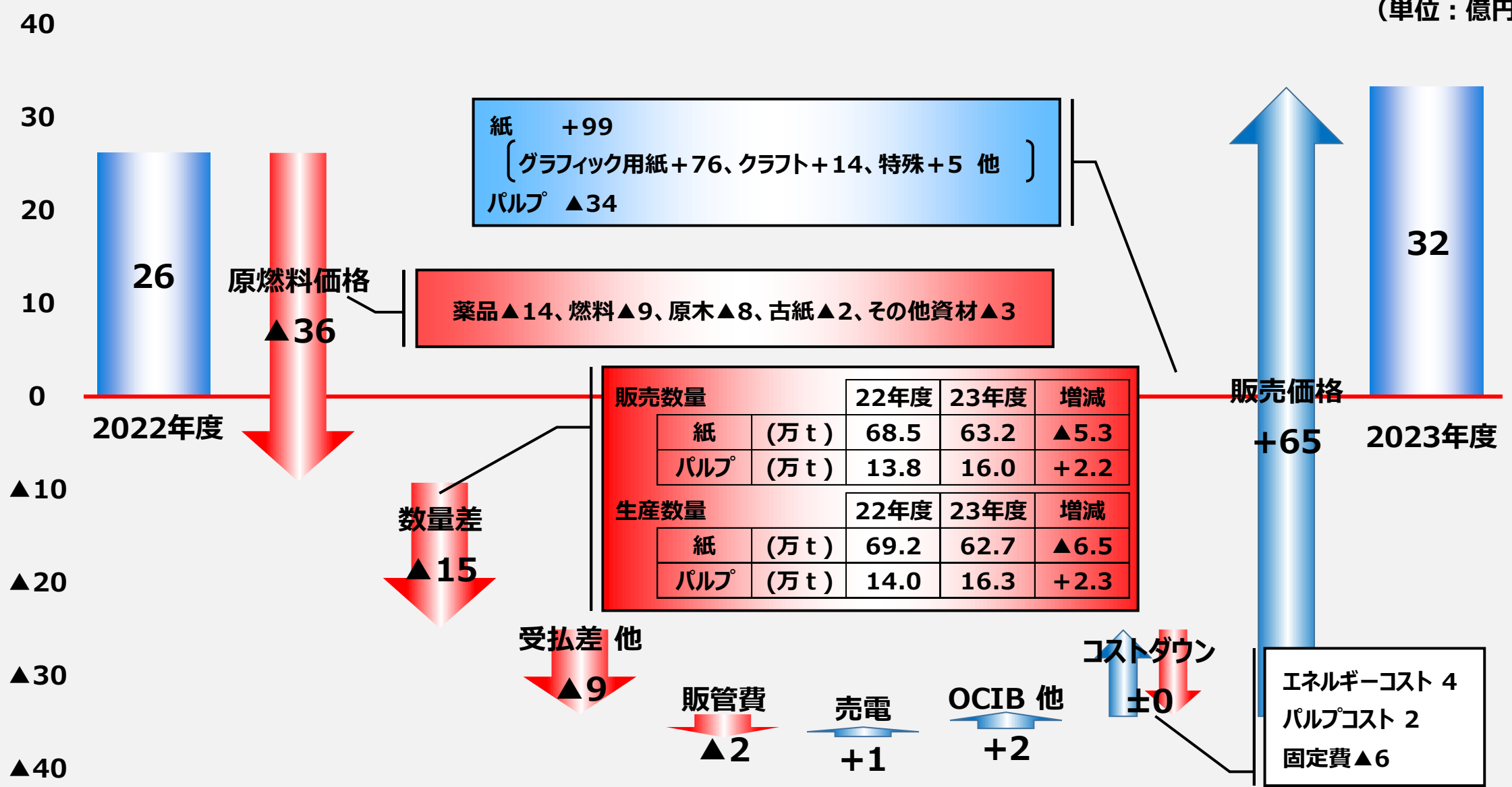




連結営業利益増減内訳(計画)



(単位：億円)





中期経営計画2025 取組み状況：概要



中期経営計画2025

- ①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減 75→60%）
 - (1)紙パルプ事業の生産体制再構築
 - (2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化
- ②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン2030

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

<収益目標>

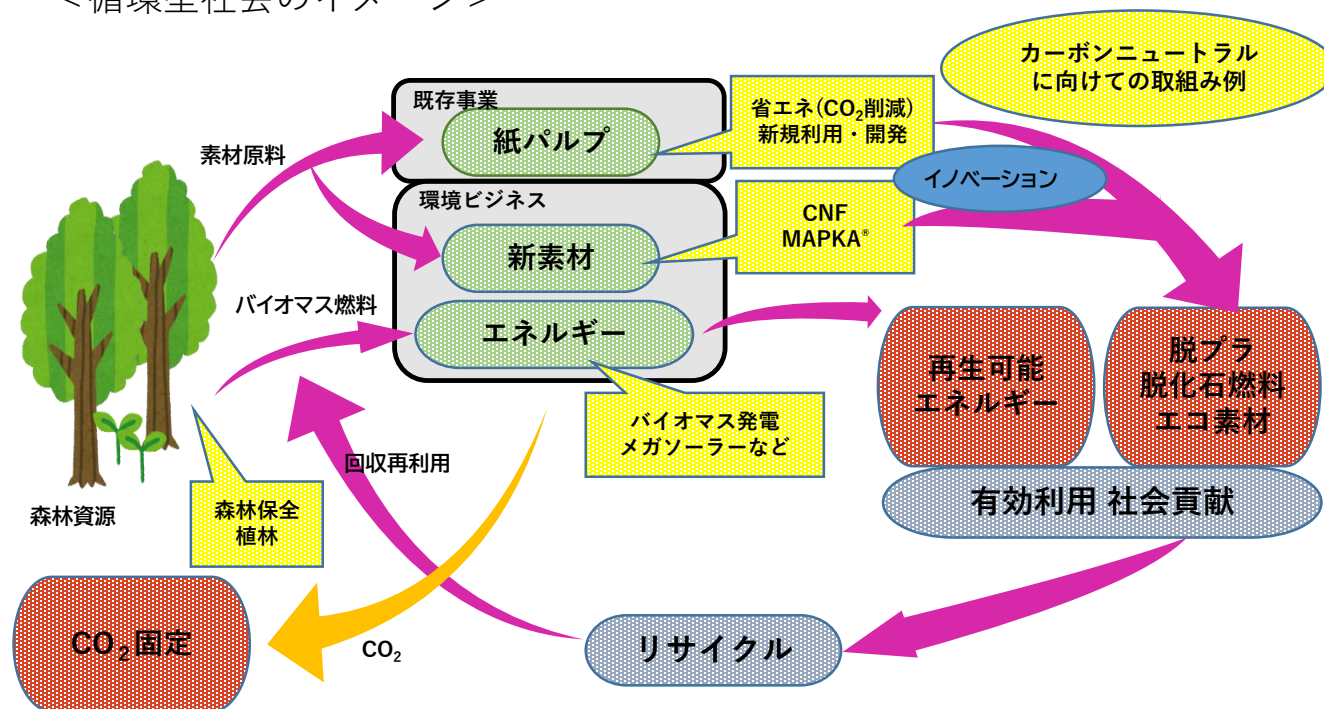
	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2025年度 (目標)
営業利益	24億円	26億円	40億円
ROE	2.6%	6.1%	5%以上

<2030年度 環境目標>

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO₂排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する。

	2013年度	2022年度	削減率 (2013年度比)
千t-CO ₂ /年	411	282	▲31%

<循環型社会のイメージ>





中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗①



《①既存事業の構造転換 進捗》

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の 構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	生産集約完了		9月末	6号マシン停機完了	
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設		設置	稼働（2023年12月予定）		
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大	パルプ増産 生産体制強化				
		脱プラ需要など紙の新規利用の拡大				
	●外販パルプ生産量：2020年度比73%増、紙パルプ拡大領域：2020年度比7%増					
(2) 関係会社収益力強化	三善製紙営業権譲受完了		文運堂文具事業譲渡完了			

- グラフィック用紙の生産集約を完了し、高岡工場6号マシンを計画通り2022年9月末に停機いたしました。
- 家庭紙マシンは計画通り2023年12月の稼働に向けて設置工事を進めています。
- 高岡工場での外販パルプ生産体制の強化を図り、2020年度比73%の生産増となり、脱プラ等の新規需要取り込みも含め、2022年度は紙パルプ拡大領域2020年度比7%増となりました。

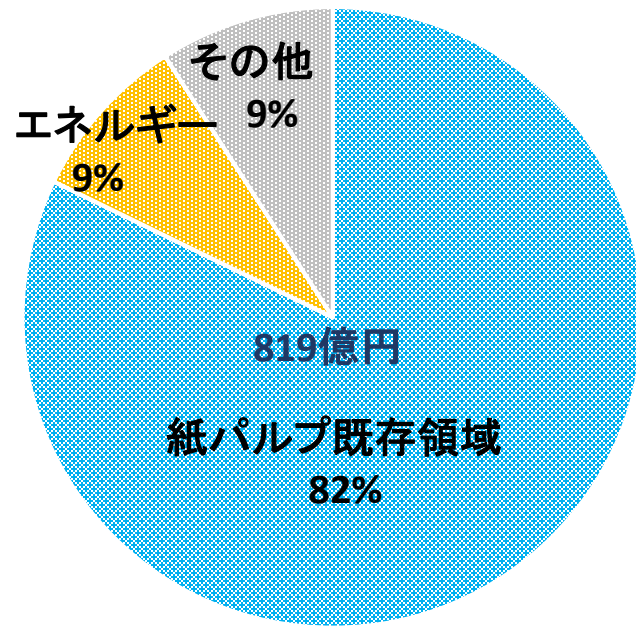
中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗②

◀②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進 進捗▶

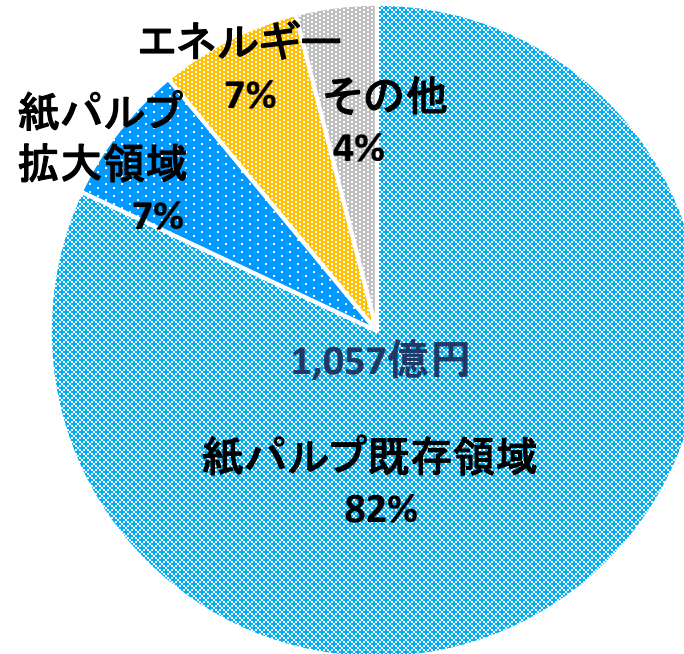
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
② 森林資源を 活用した環境 投資・環境 ビジネス推進	I CNF実用化・開発加速	高機能CNFプラント 2022年春より設備検証テスト開始、順次サンプル販売開始				
		nanoforestの新たな分野への利用拡大				
		●農業資材の試験販売開始、化粧品原料への新規採用など				
	II 中越エコプロダクツ		製造設備試運転	製造設備営業運転		
	III バイオマス発電(検討)		検討	設置		
IV 既存ボイラー脱石炭	削減取り組み中 ●2022年度実績：石炭使用量2020年度比38%削減(9,800t-CO ₂ 削減)					
V 植林事業	2030年度までに1,000haを目標に実施中 ●2022年度より着手、順次拡大予定					

- CNFは新たに、農林水産省が策定する「みどりの食糧システム戦略」で推進する総合防除(IPM)の「物理的防除」に対応した農業資材「nanoforest-S【アグリ】」の試験販売を開始しました。
- MAPKA®製造会社である中越エコプロダクツ(株)は設備の試運転を開始しており、2023年夏の営業運転開始を目標にしています。
- 高岡市及び薩摩川内市において、木質バイオマスや再生資源を活用した発電設備設置の検討を行っています。2026年度以降の早期稼働を目指し、投資計画を作成中です。
- 二塚製造部でボイラー燃料として使用している石炭の量は、継続した削減努力により2020年度比38%減となりました。これにより9,800t-CO₂の削減となります。また、さらなる削減に向けて新たな石炭の代替燃料を模索しています。

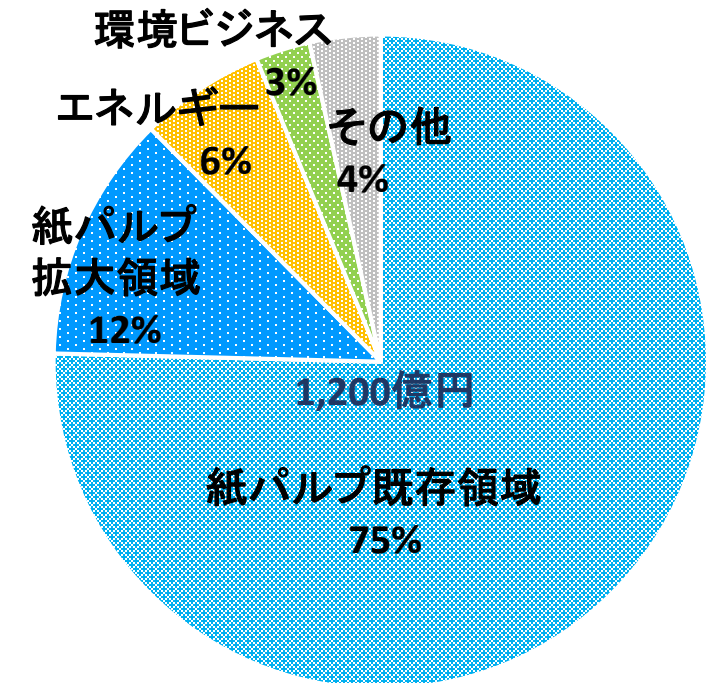
中期経営計画2025 取組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2022年度実績



2025年度見通し

- 2022年度はグラフィック用紙の生産集約や外販パルプの増産、新規脱プラ需要の取り込みなどにより7%の紙パルプ事業領域拡大となりました(2020年度比)。2023年度以降は新規家庭紙マシンの稼働開始等、さらなる拡大を図ります。
- エネルギー事業は総売上高の拡大等の影響により、2%減(2020年度比)となりました。
- 環境ビジネスは中越エコプロダクツ事業の営業運転開始などにより、2023年度以降増加する見通しです。

※計画の進捗や製品価格改定等、現在の状況を考慮し、2025年度について当初の見通しから見直しを行っております。



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

新規分野への nanoforest 展開

・農業分野への nanoforest 利用

- ・2022年7月、耕作農業向けに“**nanoforest-S【アグリ】**”の試験販売を開始しました。
- ・国が推進している『総合防除(化学農薬だけに頼らない病害虫の発生予防)』に対応した、CNFの微細な網で作物を病害から保護する、**新たな農業資材**です。
- ・化学農薬使用量(リスク換算)を2019年対比で2030年には10%減、2050年には50%減の目標が設定され、この目標達成に貢献できる農業資材です。
- ・試験販売開始後、いくつかの自治体や企業、農家でトライアル使用を開始しました。

・プラスチックリサイクルへの nanoforest 利用

- ・2022年7月、国立大学法人東京農工大学に寄附講座を開設しました。
- ・CNFを利用した、プラスチック再生技術の実用化研究を進めています。

・2023年春、化粧品向け nanoforest【MicC】の販売開始



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速 (②- I)

高機能CNFパイロットプラント建設

従来から販売している

- ・nanoforest-S(水分散)
- ・nanoforest-PDP(粉体)
- ・nanoforest-MB(ペレット)

CNFのスラリー品(水分散品)

樹脂やゴムへの分散性を改善させたCNF乾燥粉体

CNFを樹脂やゴムなどに20~30%分散させたもの

に加えて、以下の3種類を製造するための「高機能CNFパイロットプラント」を建設します。

①nanoforest-S(高解繊CNF)

従来品よりも解繊を進め、高機能製品への適応性を向上させたCNF

主な用途:化粧品、農業利用

②nanoforest-M(疎水化CNF)

有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF

主な用途:化粧品、工業利用

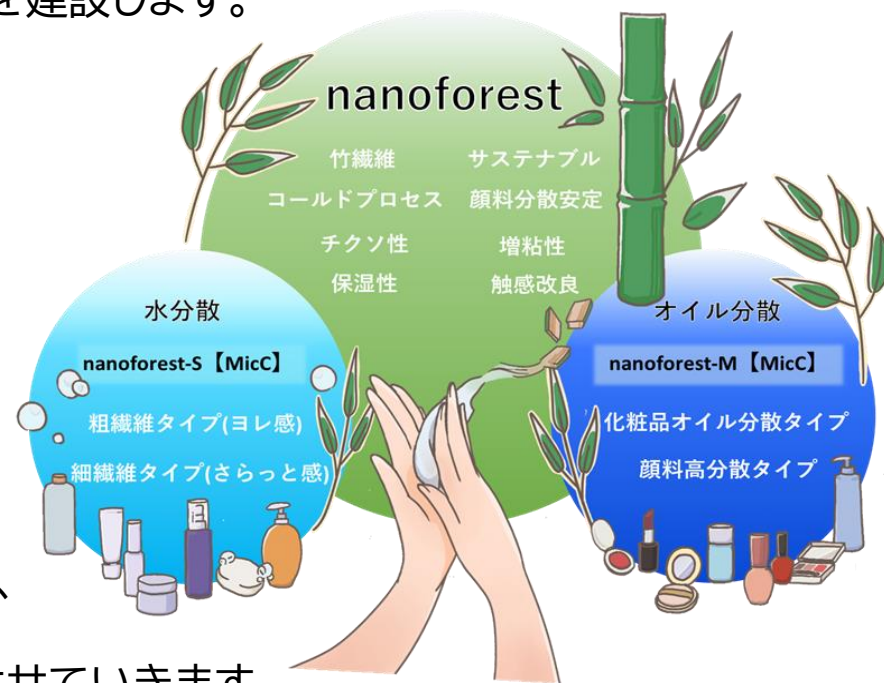
(オイルの増粘効果があり、化粧品用途では触感が改善)

③nanoforest-CMB(CNF成形体)

nanoforest-Sを脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体

2022年春から設備検証テストに入り、高解繊CNFとCNF成形体の販売を、
また2023年から疎水化CNFのサンプル販売を開始しました。

今後サンプル販売先からのフィードバックをパイロットプラント設計に反映させていきます。





中期経営計画2025 取組み状況



中越エコプロダクツ事業（②-Ⅱ）

設備据付工事完了 ～ 試運転実施 ～ テスト品生産開始

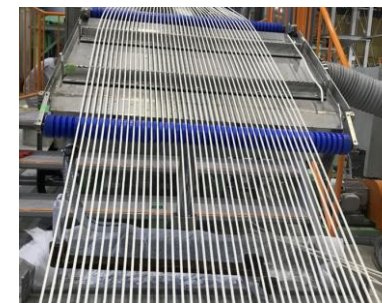
2023年3月末で**設備据付工事を完了**し、**試運転を開始**しました。
試運転と並行して(株)環境経営総合研究所と共同で品質確立のためのテスト品生産を行い、**MAPKA®ペレット製品**の**一定の品質を確立**しました。

お客様との品質確認 ～ 営業運転開始へ向けて ～



現在は更なる製品品質向上を目指して改良品生産に取り組んでいます。
市場ニーズに応えられるよう生産技術のレベルアップを図りながら**2023年夏の営業運転開始を目標**にしています。

当社高岡工場と中越エコプロダクツ(株)



MAPKA®生産工程



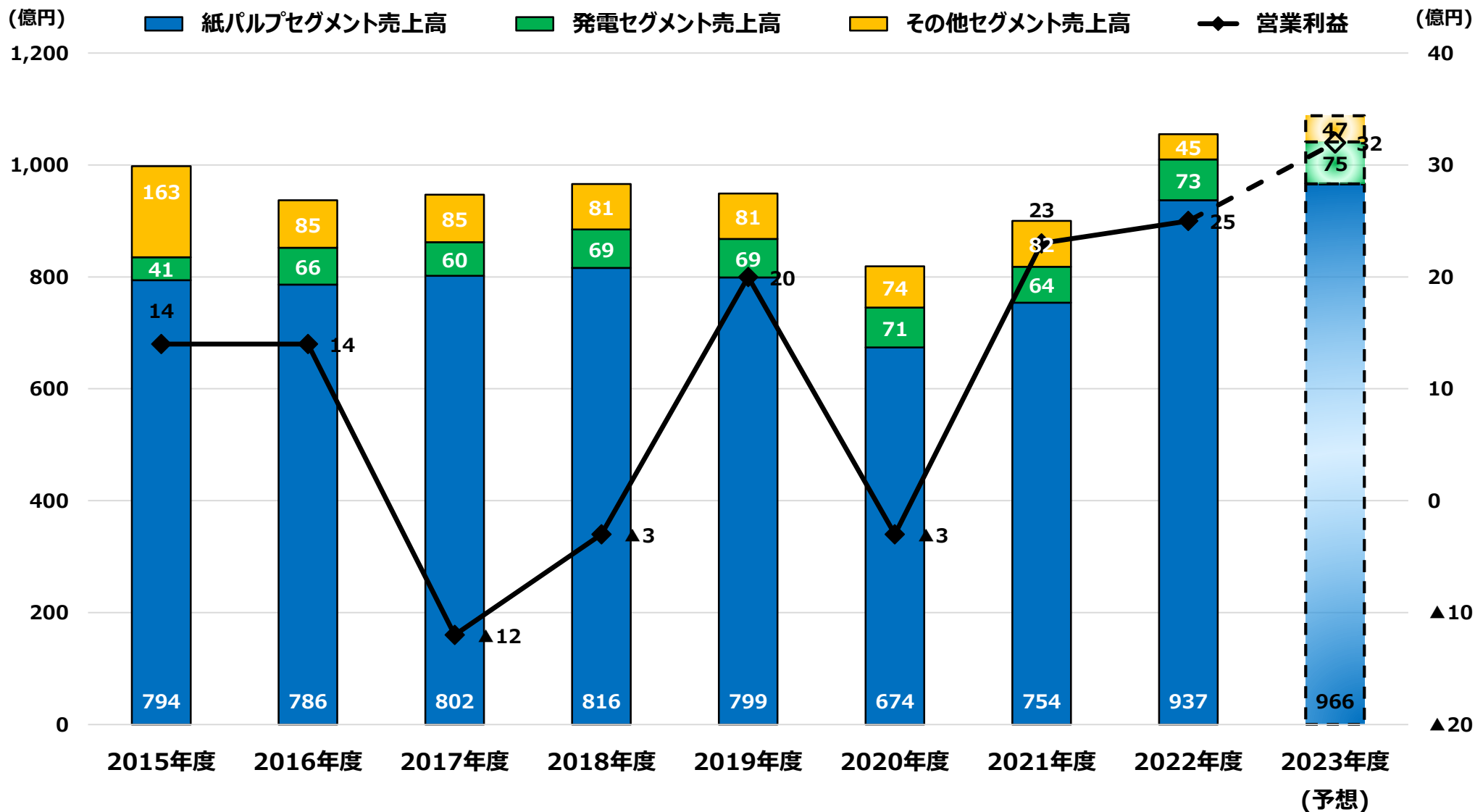
MAPKA®製品ペレット



MAPKA®製品紙袋梱包

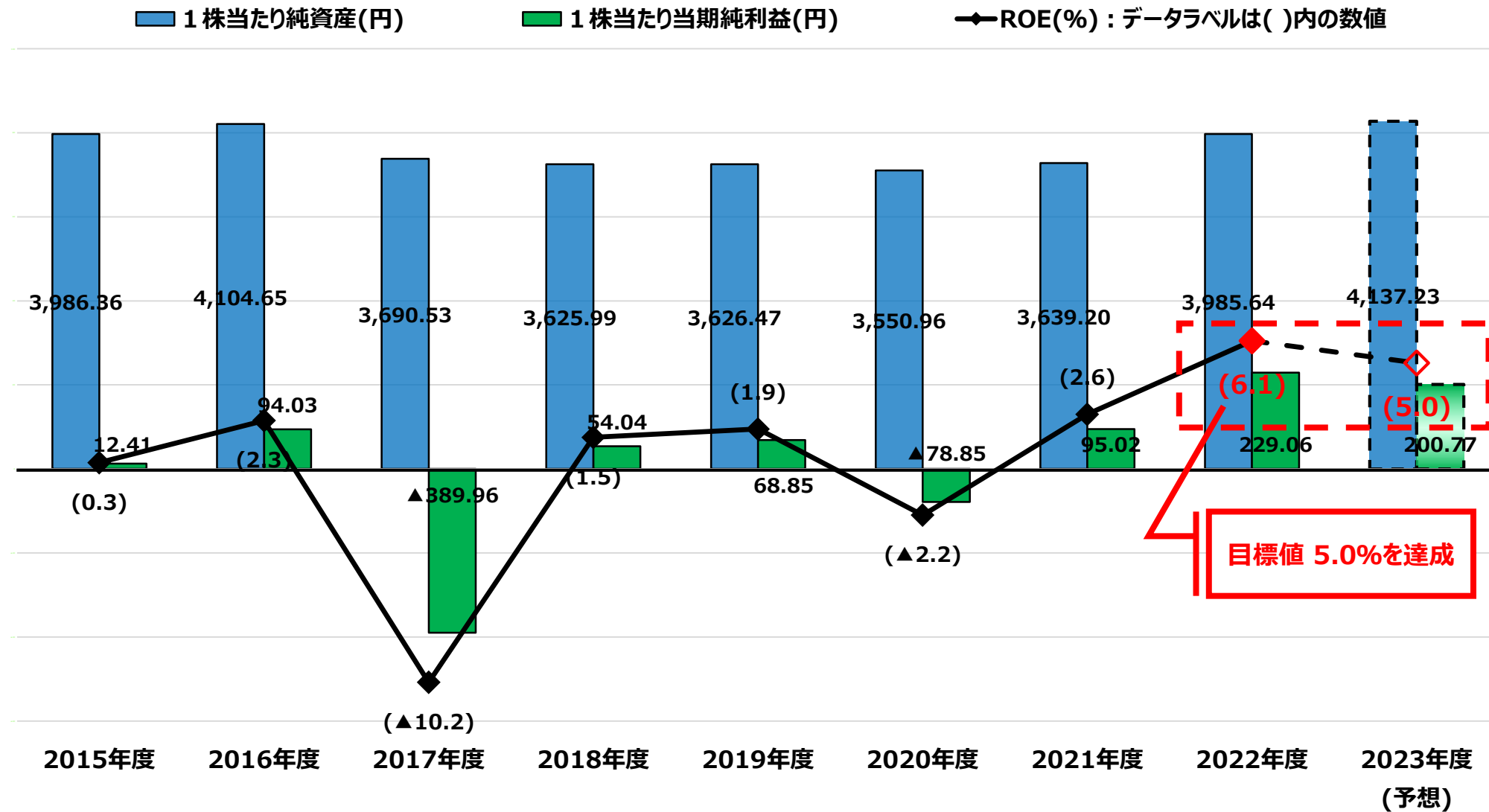


《参考資料》連結業績推移



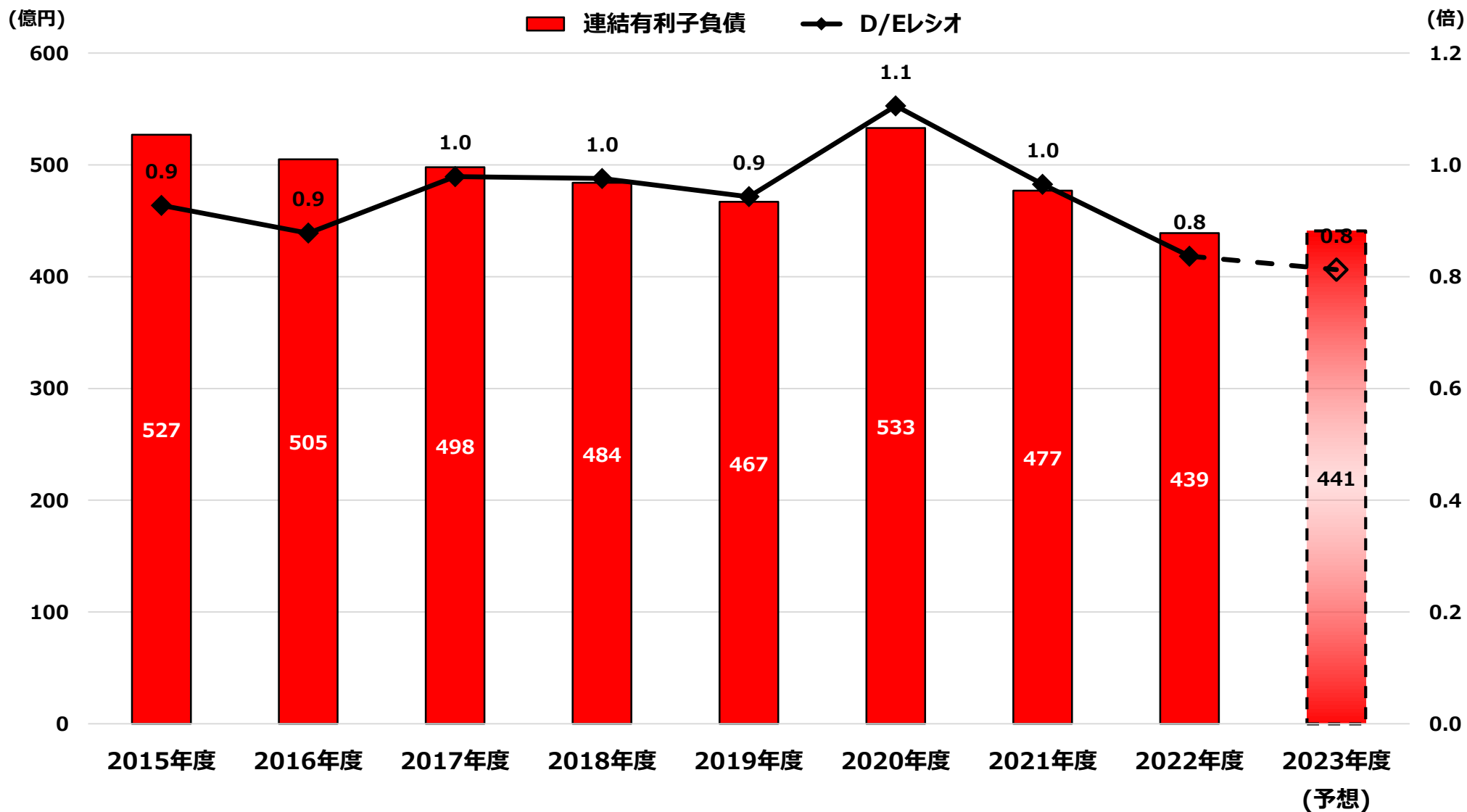


《参考資料》連結自己資本利益率(ROE)推移



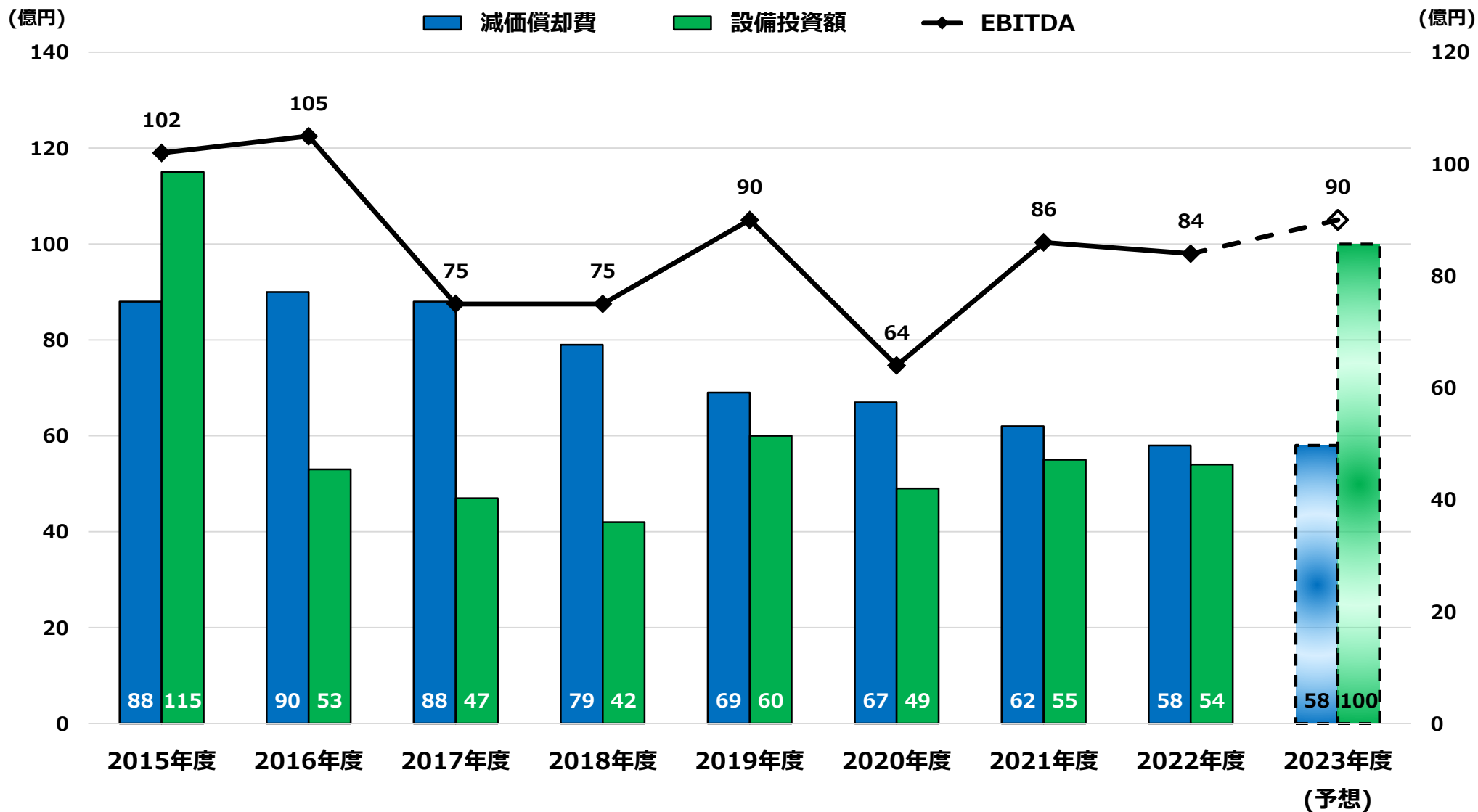


《参考資料》連結有利子負債残高推移





《参考資料》 連結設備投資・減価償却費推移





《参考資料》原燃料価格推移(対2009年度比較)

